

[随想]

明治丸要目考

東京商船大学 名誉教授 庄司 和民

Particulars of MEIJI-MARU

Kazutami SHOJI

東京海洋大学の越中島キャンパスには、昭和 53 年 (1978)5 月 31 日 に国の重要文化財の指定を受けた明治丸が保存されています。明治丸は英国のグラスゴーで建造され、明治 7 年 (1874)11 月 24 日竣工し、明治 8 年 2 月 20 日横浜へ回航されました。日本で最初にロイド船級協会の船級 100A1 の資格を受けた船 (『日本海事協会 100 年の物語』より) でもあり、ご存知のように、燈台巡廻船として工部卿伊藤博文が計画し政府専用船としても用いられ、翌明治 9 年 7 月明治天皇の東北巡幸に際し青森から函館そして横浜着まで御乗船になり、御安着の日をトして海の記念日は 7 月 20 日となった由緒ある船であります。明治 30 年 (1897)11 月本学に移管されるまで、主要な燈台の建設に活躍し、本学に移管されてからは毎朝の掃除日課に於いて、当番学生が甲板掃除を行ない、且つ操帆訓練・技業実習に使用されるなど、学生の心の故郷となり慕われて参りました。

この明治丸の要目を説明書に掲載することになって、建造仕様書・造船所記録・ロイド証書・燈台部記録・学校記録・文化庁調査記録を調べてみますと、次表のように各要目の値が微妙に違っていることに気が付きました。

資 料	仕 様 書	造船所記録	ロイド証書	燈台部記録 (1)	学校 記 録 (2)	文化庁調 (3)
	明治 6 年 (1873)	明治 7 年 (1874)	明治 7 年 (1874)	明治 8 年 (1901)	明治 35 年 (1902)	平成 3 年 (1991)
規格	ロイド船級	1 0 0 A 1				
全長	250 呎 (76.2m)			242 呎 (73.76m)	242 呎 (73.76m)	75.044m
水線長	225 呎 (68.6m)	225 呎 (68.6m)		225 呎 (68.6m)		68.187m
甲板長			223 呎 (68m)			
幅	30 呎 (9.14m)	30 呎 (9.14m)	30 呎 (9.14m)	29 呎 2.5(8.9m)	29 呎 2.5(8.9m)	9.176m
深さ		22 呎 5 吋 (6.8m)	22 呎 (6.7m)	21 呎 5 吋 (6.5m)	21 呎 5 吋 (6.5m)	6.901m
公称馬力	250 馬力		280 馬力	254 馬力		
指示馬力		1450 馬力				
実馬力			1100 馬力	1530 馬力		
計画速力	10.5 ノット					
公試速力		12.66 ノット				
平均速力				11.5 ノット		
屯数 (BM)		996 トン	998.75 トン			
総屯数	1001 トン		1010.08 トン	1027.57 トン	1037.2 トン	
登簿屯数			463.24 トン	448.41 トン	457.46 トン	

(1) 航路標識管理所第一年報 (明治 38 年 8 月発行) (2) 商船学校校友会雑誌 (第 54 号: 明治 35 年 6 月) 附録学校一覧
(3) 重要文化財明治丸保存修理工事報告書 (平成 3 年 3 月 30 日発行) (BM) は Board of Measure で英国の船舶測度局

明治丸説明書には、どの値を用いたらよいか困惑したことを思い出します。まさか、人間のように日々成長したり衰えたりするわけでもないでしょうから、多少は測定方法による違いはあるものと考え、説明書には建造当時の要目と断って、総屯数・登簿屯数・公称馬力・実馬力・平均速力は、燈台部記録によることとして「1027.57 トン」・「448.41 トン」・「254 馬力」・「1530 馬力」・「11.5 ノット」を採用し、試運転速力は、造船所記録の公試速力「12.66 ノット」を採用しました。長さは、水線長が造船所記録・燈台部記録共に「225 呎 (68.6m)」でありこれを採用し、幅・深さは、造船所記録と文化庁調査値とが近い値でありましたので、これらを勘案して「30 呎 (9.1m)」・「22.6 呎 (6.9m)」としたものであります。将来、もっと科学的な根拠に基づいた値を与えることが出来たならば幸いと念願するものであります。

最近上部構造物の傷みが甚だしく心痛しておりましたが、大学当局のご努力により修復のめどがたったことを喜んで居ります。私が最上級生であった昭和 18 年 (1943)5 月 10 日 今上陛下が学習院初等科三年生であらせられた砌、本学に行啓され旧図書館 2 階のベランダより明治丸の操帆訓練やボンドでの短艇帆走訓練を御覧になられたことを想起いたします。修復が完了した暁には、現皇太子様の行啓を仰いで、曾々祖父様明治天皇が御乗船になられた船として、御覧いただけることを熱望するところであります。